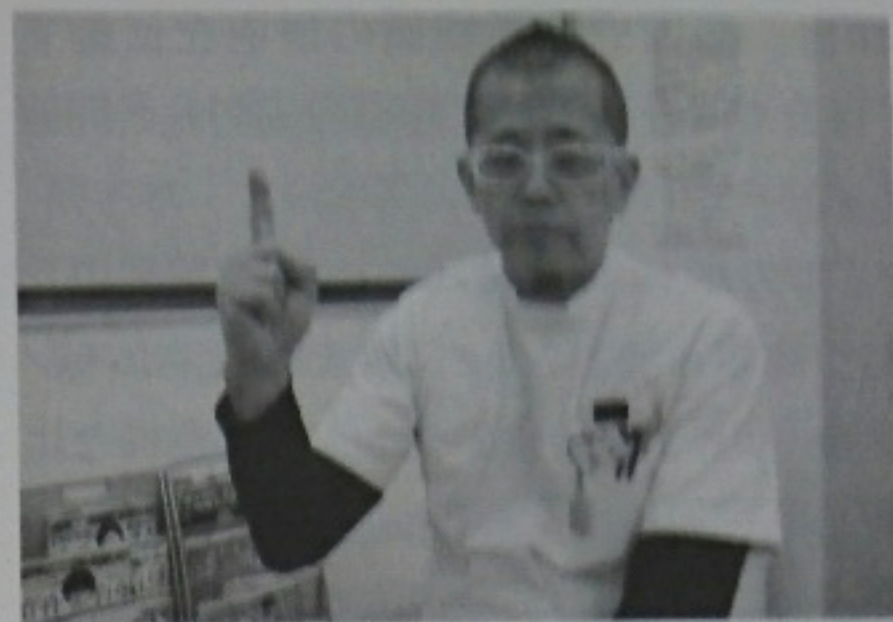


清水整形外科クリニックは2006年8月に開院した医療機関。院長の清水伸一氏は、“薬漬け”の医療に疑問を持ち、西洋医学、東洋医学、栄養療法などの良い部分を自身の診療に用いている。「患者さんにとってのオンリーワンとなる治療を目指す」と語る清水氏にポリシー、統合医療のアプローチについて聞いた。



—— 清水先生が統合医療を手掛けたきっかけについて教えてください

開院する以前から患者さんが“薬漬け”になってしまう現代の医療に疑問を感じていました。西洋医学一辺倒になるのではなく、日ごろから西洋医学、東洋医学、食による栄養の良い部分を用いた治療を実践したいと思っていたのです。

何種類もの薬を飲む時点ですでに健康な体ではありません。薬を飲んで生活しているうちは本当の健康体ではないのです。薬に頼りすぎることは患者さんの体にとって厳しい治療になりますし、副作用もあります。私は薬に頼る時代はもう終わりにしたいのです。決して西洋医学や東洋医学を否定しているわけではありません。つらい頭痛を訴える患者さんには鎮痛剤を処方します。しかし、それで終わりでなく本当に必要なのは、患者さん自身が頭痛を起こさないよう生活習慣や体質を改善すること。これをしっかりとサポートしていきます。漢方を使うこともありますし、運動療法も重要です。当院ではリハビリに運動療法も取り入れていますが、患者さんの自己流にならないよう適切な指導が大切です。

—— 栄養面についても重視していますね

現代は栄養過多でありながら栄養失調

患者さんにとってのオンリーワン治療を目指して

の時代です。現代人は自分の好みを優先しがちで、食事が自分の体を作るという認識がなくなっています。医師も生活習慣の改善や栄養指導をすることなく薬を出して満足しているのです。

—— サプリメントも活用されています

薬を飲まなくても生活できるように使うのがサプリメントです。足りない栄養素をサプリメントで補充することで薬がいらなくなれば、それに越したことはありません。医師も西洋医学的な薬や東洋医学的な漢方はもちろんのこと、サプリメントの知識も持たなければいけない時代だと思います。サプリメントの持つ意味や意義を患者さんに適切に伝えなければいけないと感じています。私が患者さんに勧めるサプリメント素材はサミー、プラセンタ、乳酸菌。最近は酵素についても自分自身で勉強しています。サプリメントの役割は、毎日しっかり摂取して病気を未然に防ぐこと。西洋医学的な薬、漢方、そして第三の選択肢としてサプリメントが存在すると思います。サプリメントを適切に医療に取り入れるべきです。このような選択肢をもってその人に合った、その人だけの治療を考えてあげるのが“オーダーメイド治療”“オンリーワン治療”なのです。